

SEAFDEC(東南アジア漁業開発センター)の概要



東南アジア地域の持続的な水産業発展のための漁業開発の促進を行うことを目的として1967年に設立された国際機関。我が国及びASEAN加盟国の計11か国で構成。

1. 加盟国

日本、タイ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、ベトナム、インドネシア、ブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー

2. 意義

SEAFDECの活動は、東南アジア地域の水産資源の持続的利用に貢献。

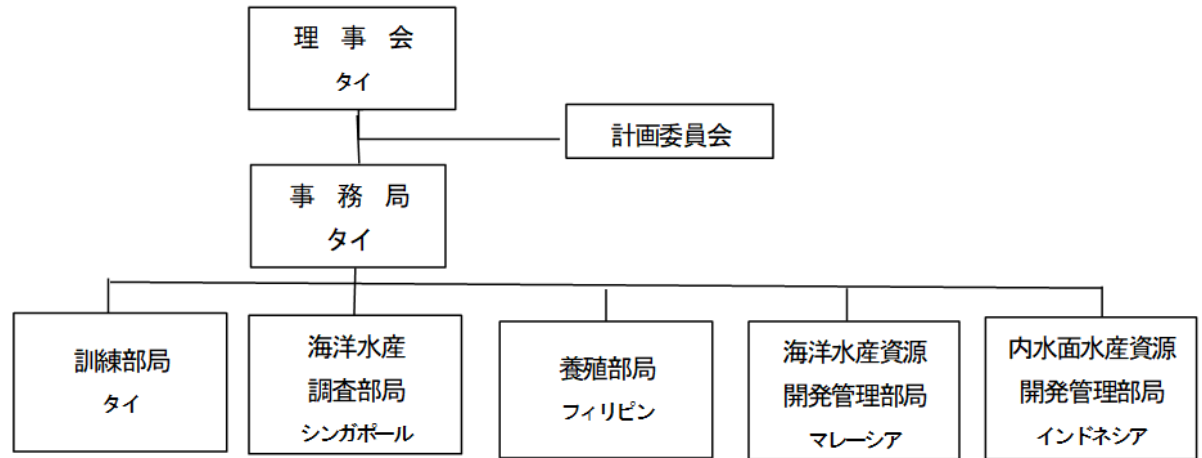
また、国際漁業問題における我が国の立場について、SEAFDECを通じてASEAN加盟国との共通理解を醸成。

3. 我が国の貢献

- ・活動予算の約2割を我が国が拠出
- ・事務局次長、部局次長に日本人が就任

4. 組織

年に1回、加盟国持ち回りで開催される理事会のほか、事務局及び専門分野ごとに5つの部局が設置され、それぞれが独自の活動を実施



5. 主な活動

- ・水産資源の持続的利用に影響を及ぼす国際問題への対応能力強化
- ・漁船登録システムの開発・普及
- ・混獲・投棄を削減する漁具・漁法の開発
- ・漁船の省エネ技術の開発、漁船の安全確保に向けた取組
- ・環境に優しい飼料による持続的養殖手法の普及・指導
- ・資源回復を目的とした漁場環境回復技術の開発・普及 等